THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

KOFU21
Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

編集長　野々垣和宏　　2025年02月04日（火）発刊

〒400-0032 山梨県甲府市中央３丁目１０－７
山梨ＹＭＣＡグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543　　fax055-235-8553
Mail　kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン（インド）	「より良い世界のために、共に」(Together for a Better World)
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン（香港）	「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)
東日本区理事	山田公平　（宇都宮）	「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)
あずさ部部長	ピーター・マウントフォード（甲府）	「めあて　望み」
甲府21クラブ会長	輿水順雄	「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)

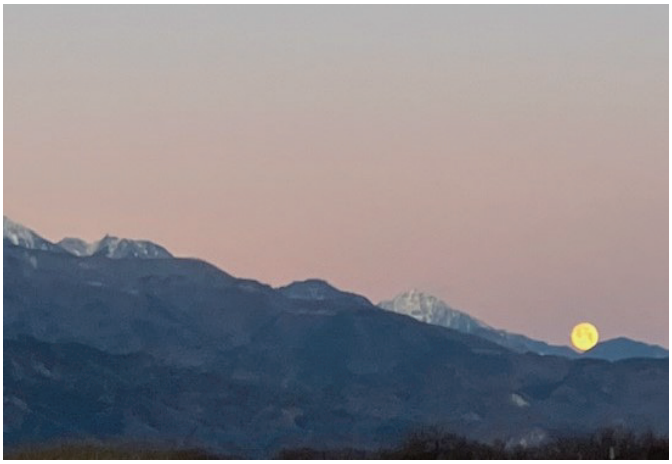
甲府21ワイズメンズクラブ
2025年２月会報

今月の強調テーマ
TOF,UGT,HTW

今月の聖句

聖句「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」
フィリピの信徒への手紙４章６節　　（選・後藤　哲夫）

2月 巻頭言



最近自宅近くから撮った「甲斐駒ヶ岳と満月」です。例年この時期の朝方に撮影することができます。

甲府21クラブ会長　輿水 順雄

県内４クラブでの新年合同例会は、今年は山梨YMCAで開催しました。利根川恵子さんの講演「世界に繋がるワイズ」で世界のワイズの現状を知ることができ、また多くの参加者で懇親会も盛り上がりました。準備・手配をしていただいた甲府やまなみクラブの皆さんに、改めて感謝したいと思います。

２月となり、次期役員案を皆様に提示する季節となりました。他にも各委員会の委員長、実行幹事を決めていかなくてはなりません。皆様のご協力なくしては、ワイズの活動は成り立ちません。お願いが行きましたら「YES かはい」で、快諾していただきたくお願いいたします。

２月はあずさ部第２回評議会のホストクラブになっています。「ワイワイ評議会」と題して、山梨YMCA での開催となります。いくつかの検討すべき課題がピーター部長から提示されています。監事の決め方、東日本区からの活動補助金がなくなることについての対応、各クラブへの部長訪問など部長負担軽減のための対策などです。当日はワークショップで、「ワイワイガヤガヤ」と活発な発言をお願いします。ホストクラブでもありますので多くの会員の皆さんのご参加、また運営へのご協力をお願いします。

節分を終えるといよいよ春です。私事になりますが、この季節はＪリーグの開幕月となりヴァンフォーレ甲府のシーズンが始まります。今年はヴァンフォーレ甲府創立 60 周年でもあります。毎年、今年こそはＪ１昇格と期待して応援しています。資金力ではＪ２でも下位のヴァンフォーレ甲府が、Ｊ１に昇格したり天皇杯で優勝したりすることは実に爽快です。皆さんも是非応援してください。

YMCA PINK SHIRT DAY

山梨 YMCA ピンクシャツ・ウィーク
2025年２月25日（火）～28日（金）
～たいせつな わたし たいせつな あなた～

２月第一例会プログラム

1．開会点鐘　　輿水順雄会長
2．ワイズソング・ワイズの信条
　　（奏楽）　　杉田博子ワイズ
3．今月の聖句　　後藤哲夫ワイズ
4．会員一言　　山縣譲治ワイズ
5．会長挨拶、ゲスト紹介　　輿水順雄会長
6．ハッピーバースデー
7．ワイズディナー
8．会員卓話　　内田良幸ワイズ
9．YMCA 報告・諸報告
10．YMCA の歌
11．閉会点鐘　　輿水順雄会長

2025 年新年合同例会報告

甲府 21 クラブ書記　荻野　清

在山梨ワイズメンズクラブ新年合同例会報告

2025 年 1 月 11 日に、在山梨ワイズメンズクラブ新年合同例会が、山梨 YMCA 大澤英二記念ホール『ベテル』において開催された。甲府、甲府 21、富士五湖及び甲府やまなみの４クラブが集結して、幹事クラブの甲府やまなみクラブ米山俊彦会長の開会点鐘でスタート。

米山会長のあいさつ、あずさ部のピーター・マウントフォード部長の祝辞とプログラムが進み、ゲストとして川越ワイズメンズクラブの利根川太郎会長・恵子ご夫妻が紹介された。恵子氏は、直前アジア太平洋地域会長として、今回の新春講演を「世界に繋がるワイズメンズクラブ」と題して下記の内容を話された。

①世界のワイズメンズクラブの現状として、世界の会員数及び国際執行役員についてとインド・韓国の会員数激減の背景。

②アジア・太平洋地域の現状として、会員数と執行役員及び自身の会長としての２年間のふりかえり。

③会員と世界の繋がりとして、国際会費の有効活用がワイズ運動の基盤であること、また、国際プログラム（ＢＦ，ＴＯＦ，ｉＧｏ）の実際と参加内容。

④国際大会及び地域大会への参加要望

この講演から、ワイズメンズクラブの現状や上部団体役員の動きの内容が若干であるが理解されたように思われる。

その後の懇親祝会が、当クラブ輿水順雄会長の開会の辞、山梨 YMCA 中田総主事の食前感謝、そして富士五湖クラブ原淑子会長の乾杯のご発声で開演。宴が進む中、新入会員の紹介として輿水会長から、江口英雄・三代子ご夫妻、武井教子さんが紹介された（志村直毅ワイズは所用にて途中退席、平田耕治ワイズは欠席）。また、山梨 YMCA プレゼンツとして、ユース活動やチャイルドケア活動及び野外活動・教室などの現行 YMCA 活動を余すことなく発表している姿があったことを記す。

閉会点鐘を甲府クラブ小倉恵一会長がおこない、2025 年年頭の在山梨ワイズメンズクラブ新年合同例会が幕を閉じた。

『第 14 回お正月を遊ぼう』報告

甲府 21 クラブ書記　荻野　清

NPO 法人 甲府駅北口まちづくり委員会主催による『第 14 回お正月を遊ぼう』が、1 月 13 日（月・祝）10 時から甲府駅北口アシストエンジニアリングよっちゃばれ広場・藤村記念館において開催された。
共催として甲府北ロータリークラブ及びワイズメンズクラブの甲府やまなみクラブ、甲府クラブ、甲府 21 クラブが参画した。

北口地域のご婦人方から「お正月の遊びの復活をやりましょう」との提案があり、そこから同委員会は、地域やボランティア団体の協力を得て始めたこのイベントは、会場設営・進行・受付・案内そして救護の万全体制の中、本年で 14 回目のイベントとなった。

天候に恵まれ、多数の来場を得る中、広場では当クラブ担当の遊びのコマ回し・羽根つきの他、けん玉・竹トンボ・輪回しなどの遊びが展開していた。多数の親子やチャイルドケア団体の方々には、数十分の順番待ちを我慢して、笑いと楽しさのある大声が響かせて、エンジョイしている姿があった。また、藤村記念館内では、クラシックコンサートや雅の会による読み聞かせ・カルタ及び紙芝居等のプログラムが組まれ、大好評であった。

「子供たちに伝えたい日本の伝統」を伝えたいという目標を持った同委員会と、甲府市の指定管理者として甲府駅北口地域に「賑やかさを創り出す」事業として始まったこのイベントが、着実にお正月の風物詩になっている姿が眩しい。

山梨 YMCA 餅つき大会報告

平賀佳雅

先月の 1 月 13 日に、山梨 YMCA コミュニティセンターの駐車場で，コロナ禍以後久しぶりにＹＭＣＡスタッフ主催による餅つき大会が実施されました。
今回は、昨年後半から再開した「大人のフクロウクラブ」と「きらきら教室」合同プログラムの一環として、甲府 21 クラブが全面的に支援して行うことができました。９時に集合した YMCA スタッフとメネット５人によりもち米炊きや豚汁仕込みが始まり、炊きあがったもち米を蒸してから、力持ちの中田さん (中田総主事の息子) や平賀さん (平賀ディレクターのご主人) により最初の試験的餅つきが始まりました。12 時過ぎ、甲府駅北口よっちゃばれ広場の「正月を遊ぼう」から帰ってきた大人のフクロウクラブときらきら教室のメンバーが加わって盛大な餅つき大会が実施できました。この餅つきには、「オリーブの木」に来ていた高齢者５人も参加して、山梨 YMCA のモットーである「FOR ALL」を実感できた瞬間でした。

《2 月の誕生者》 Happy Birthday!

［敬称略］

（メン）
　山縣譲治（2/6）
（メネット）
　荻野優子（2/4）
　鎌田千里（2/9）
　饗場雅子（2/10）

<お詫びと訂正>
１月の誕生者に、江口英雄さんが抜けておりました。
誠に申し訳ございません。訂正してお詫び申し上げます。
江口英雄さん　１月 16 日生まれ
（文責　山本俊一）

《 1 月例会の出席者》

会員数	45名
第一例会出席者	21名
ゲスト参加者	-名
メネット	5名
総出席者数	26名
出席率(会員のみ)	49%

会計報告

会計　赤根 学

［会計報告］　2025 年 1 月末現在　赤根

項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
1月の合計	0	0	0	0
1月末迄累計	75,397	550,000	42,750	668,147
達成率	30.1%	550.0%	85.5%	167.0%

今後の予定

（2月）
・2/4　火曜 18：30　第１例会（現状３０名の出席）
・2/8　土曜 11：00　第2回あずさ部ワイワイ甲府評議会（現状１１名の出席）
・2/16 日曜 9:30 銀河鉄道デイワーク支援（カレー作り）
・2/18　火曜 18：30　第２例会
（3月）
・3/4　火曜 18：30　第１例会
・3/15　土曜 11：00　在山梨４クラブ合同（YMCA 福田追コン・5/24ﾁｬﾘﾃｨｰﾗﾝ実行委員会）
・3/18　火曜 18：30　第２例会
・3/26　水曜 10：00 集合　富士五湖クラブとコラボ YMCA チャイルド事業支援（カレー作り）
（4 月）
・4/1　火曜 18：30　第１例会
・4/15　火曜 18：30　第２例会
・4/19　土曜 9：30　障がい者ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ大会（1 班）
・4/19　土曜 12:00 集合　ベビーカーコンサート（2 班）

「日本での百年」を辿って

グウェン・R. P. ノルマン◉著
後藤哲夫◉訳
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

後藤　哲夫

第 13 回 宣教師 S・A・ウィントミュートの苦悩、迷い、新しい決断

▽本文より引用
運営会議には愉快なひとときもあった。あるとき、サンビーは椅子に座ってすやすや眠っているアームストロングを指さして、「くそ！　あの太っちょは、また眠り込んでいる」というチャールズ・ディケンズの言葉を持ち出して言った。
コーツもまた眠っていたが、感謝の祝禱をもって会を閉じるように指名されたとき、よろよろと立ち上がるやいなや、食事前の感謝としてミッションがよく愛唱する「主よ、私たちの食卓に共に居ませ……」を歌い始めた。（ここまで）▽

コーツ宣教師（1865-1934 年）はイビー自給伝道隊の一員として来日し、すぐにカナダ・メソジスト宣教局に加えられた。学問に秀で、イビーの後継者として第２代中央会堂総理（1894-1915 年）となる。仏教の本格的な研究者で、石塚竜学と『法然上人の生涯』（法然上人絵巻）を翻訳し注釈を付けて出版した。彼は、東洋思想の本来的な意味を西洋の読者に伝えたいと思った。東京帝国大学の東洋哲学科で、バラモン、仏教、儒教、神道、武士道を学んだが、たえず西洋の思想と比較し、類似点を探っていた。今日の「東西文化交流」の先駆けである。

彼は語学の天才で、その講義には日本語の上でひとつも誤りがない、との定評があった。日本語のダジャレ（同音異義語）がうまく、いつも周囲を笑わせていた。また音楽家で、讃美歌委員会委員も務めた。「ピアノを弾きながら、ピアノ椅子の上でくるっと向きを変えて、いたずらっぽい目で聴衆に微笑みかけて歌うので、皆笑い出さずにはいられなかった。特に若い宣教師たちに人気があった。」と言われている。

所で、わが山梨英和女学校の初代校長（1889-91 年在職）S・A・ウィントミュートが、1893 年にこのコーツと結婚した。彼女は夫を助け、中央会堂、浜松（1916-30 年）金沢・名古屋（1931-34 年）で伝道、社会奉仕に尽くした。特に、浜松ではピーナッツの栽培を手がけ、ピーナッツバターを考案し、その普及に努めた。後年家政学を講じ、西洋料理を教えた。コーツは、34 年肺炎で死去し、浜松市営中沢墓地に埋葬されている。

コーツ夫妻の息子ウィルソン・コーツ（ロチェスター大学教授）は、「東と西の文化交流ーアグネス・ウィントミュートとハーパー・コーツの場合ー」という論文を書いている。彼は、両親の互いへの深い愛情と、６人の子供を育てる労苦を述べた後で、両親が仏教や日本文化に深い敬意を払っていることを指摘している。しかし、コーツは「あらゆる宗教の中で、キリスト教の卓越性への確信を失わなかった」と付け加えている。

しかし、ウィントミュートの場合は異なっていた。彼女は 1920 年 4 月4日、息子ウィルソンに宛てこう書き送っている。「自分の利益のためでなく、神の霊によってなされていることは、すべて主のみ業なのです。」そしてこの頃、ウィントミュートは、バーハイ（バハイ）教のメンバーとなった。ウィルソンは両親の間に「深刻な緊張の期間があった」（勿論、離婚なぞ話題にもならなかったようだが）と言う。彼女は第一次世界大戦（1914－1918 年）で、キリスト教国

の身内同士の争いを目撃し、キリスト教に失望した。彼女は教会を援助し続けたが、ミッションからは正式に脱退した。

私はバハイ教についてはほとんど何も知らない。世界平和、男女の平等、人類の一体性、すべての宗教の和合などを掲げる、理想主義的新宗教であるらしい。ウィントミュートは、信仰を保ちながら、社会の中で実践活動をすることの乖離を感じていた。キリスト教の原点に目を注いでいたが、彼女なりの決断をして、無言の抵抗としたのではないだろうか。これらは筆者の想像である。彼女は 1945 年（終戦の年）6月、東京のニコライ堂仮設病院で亡くなった。子供たちからの再三の帰国の電報に応え、決意し、持ち物を皆他者にあげてしまった。それでも彼女は帰国しなかった。子供たちは戦後その経緯を懸命に調べたが、今なお不明である。

▽ブリテン委員長　野々垣和宏です。
今回のコラム冒頭に出てきたチャールズ・ディケンズにちょっとビックリしているところです。

とは言っても、「クリスマスキャロル」ぐらいしか出てきませんが、イギリスを代表するヴィクトリア朝時代（1812 年～1870 年）の小説家、とあります。

「日本での百年」を読んでいると、イギリス文学や、ギリシャ神話などに言及している教養深さに触れることが多くあります。

後藤先生の本筋には全く関係ないのですが、このチャールズ・ディケンズについて２つの事を述べたいと思っています。
１つは、かなり前に述べた夏目漱石・三四郎と中央会堂（教会）のような「時代」のイメージです。ディケンズの「あの太っちょは、また眠り込んでいる」というのは「大いなる遺産」でしょうか。その中の台詞をサンビーが使っている、ということ。ある意味流行作家の言葉を宣教師が使っているということが新鮮な感をもちます。
もう 1 つは、没後 150 年以上経つのですが、ディケンズ文学における「眠り」の多様性は今でも英文学研究科の間では重要なテーマになっている、ということ。こちらは、いろいろな論文を読んでみたい気持ちになります。

私の戦争体験　No.2

甲府空襲

鎌田　巖

甲府空襲を実際に体験し、はっきりその戦争の状態を記憶しているのは私達より上の年齢、国民学校に入学した人達だと思います。戦火の中を逃げ回り、生き伸びてその日から‘衣食住’全てを失った生活、皆様は想像できますか？

私は昭和 13 年 7 月 4 日、現住所に生まれ、昭和 20 年 4 月琢美国民学校に入学しました。毎日の生活は燈火管制、警戒警報が昼夜鳴り響き、男性はゲートル（巻脚絆）女性はモンペ服で、ごろ寝、昼は隣組単位で軍事訓練、その間を縫って開墾疎開の準備、防空壕の強化に明け暮れる生活が続きました。
入学して間もない昭和 20 年 6 月 9 日の午後、ドーンと響く音とともに、甲府盆地の上空にキラキラとビラが撒かれて宙に舞いました。遊びに出ていた私も夢中でビラを拾い回りました。間もなく憲兵や警察官がきて、「毒がついているので、触るな」と言ってビラを回収してまわり炭俵に詰め込みました。私もビラを拾い回り俵に詰め込む手伝いをしました。ビラの一枚を持ち帰り父に見せたら、内容は「日本良い国　花の国３月４日は花盛り、７月８日は灰の国」「近々空襲があります。疎開の用意が出来たか」と書かれていたのです。これが甲府空襲の予告ビラでした。

昭和 19 年 12 月頃から、甲府の空は頻繁に富士山上空に数機の B29 の編隊飛行が銀翼をキラキラと輝かせて飛行してきて、右旋回して東京方面に向かって去って行くようになりました。（レーダーがまだ正確ではなく富士山を目標にして東京方面の目的として飛来していたので。）
昭和２０年６月 16 日には、琢美国民学校は兵舎に変わり陸軍兵士が校舎に宿泊するようになり、学校は満杯になりました。上級生は軍事教訓を受けていました。
「昭和 20 年 7 月 6 日　B29 がマリアナの基地を離陸して甲府に向かう直前、甲府空襲の朝、琢美国民学校兵舎の兵隊たちの姿が消えた」その日の宿直の先生の証言です。当時の

軍、警察、県、市の指導者たちは甲府が空襲になることを予知し、家族と共に密かに家財を持ち出し安全な郊外に避難して難を逃れたのでした。一般の市民には何の知らせもなかったのです。戦争の犠牲者はいつも女性や老人 子供の弱い人たちになります。

“甲府空襲”：昭和 20 年 7 月 6 日夜半
午後 11 時頃から甲府の夜空にサイレンが鳴り響くと同時に照明弾が落とされ、空一面が明るくなると同時に焼夷弾が落とされ甲府市内は火の海となった。
私は両親に起こされ、家族（両親、姉）４人で裏が愛宕山なので、愛宕山に避難しました。避難の途中母の頭を焼夷弾が当たったが幸い軽症で済み事なきを得ました。（私が避難するときに慌てて防空頭巾を被っていなかった為、母が自分の頭巾を私に被せてくれたので、母の頭には防空頭巾はなかったのでした。）
愛宕山は高台で、甲府市内の戦火の様子は鮮明に見えました。甲府市内は一面、火の海になって燃えあがっていました。（とても綺麗な夜空だったと記憶しています。）
幸い家族全員無事で戦火を逃れることができました。爆撃が終わり明け方家に戻ると家は跡形もなく消失していました。付近の状態は隣家の裏の家屋は焼け残り、藤川の北側は焼け残りました。私たち家族は焼け残った裏の一軒に身を寄せました。
甲府市内は‘焼野原’で残っている建物は岡島百貨店　松林軒　若尾ビル　法人会館　山田町の北側その他少々の人家でした。

犠牲は甲府市内の南方面特に湯田地域の被害が酷かったのです。
７月６日の甲府空襲が終わり、８月１５日天皇陛下の戦争終結宣言のラジオ放送で終戦、戦後は GHQ（連合国最高総司令部）が全てを支配しました。私の母校琢美国民学校も焼失しました。学校は再開されましたが校舎がありませんので、昭和 20 年 7 月 21 日から、授業は戦火を免れた富士川小学校で、午前中は富士川小学校が使用し、午後は琢美小学校が借りて使用しました。それも 1 年間で翌年からは琢美小学校の何もない跡地で、授業は再開されました。教科書は戦前に使用した教科書で差し支えある箇所は黒く塗りつぶされていました。雨の日は傘をさし、夏も暑い日差しを避けながら授業が続けられ教室がありませんので、毎日が野外授業、いわゆる‘青空教室’です。時には弁当、教科書持参で愛宕山に登り、そこで授業？をする事も多々ありました。学校は新制度になり、国民学校から小学校に、6 3 制に変わりました。昭和２３年頃から校舎が再建されてきましたが、運動場は罹災者の住宅で埋め尽くされていて使用する事は出来ませんでした。勿論、音楽室、工作室、プール等はありません。集会は 3 つに区切った教室の区切りを外して使用しました。運動会が再開されたのは小学校 4 年生（昭和 24 年）でした。学校として機能が整ったのはこの時です。このような戦後の生活は今の人々には想像も出来ないと思います。この頃の事を思い出すと、今は本当に良い時代だと思います。今も世界各地で戦争が行われていますが一刻も早く終結することを望みます。
戦争によって得るものはなにもなく、ただ虚しさだけが残るだけです。

太平洋戦争末期の昭和 20 年、1945 年 7 月に起きた甲府空襲。アメリカ軍の爆撃で甲府の市街地は一面焼け野原となり、1127 人が命を落としました。凄惨な空襲に耐えた数少ない建造物のひとつがこの旧岡島です。
「鉄筋コンクリートという不燃構造だったから（残った）」黒々とした焦げ跡が、火の手の激しさを物語っています。

2024.3.14　UTY 岡島解体工事現場より

ペンリレー

＜市川　規一先生の言葉＞

鎌田　巖

今年のバザー当日、大沢先生の奥様と話す事ができました。話の中で、甲府 YMCA の設立当時の話がでました。当時の事を知る人は、今は少なくなった事、何と言っても 市川　規一 先生の事が中心になりました。私と先生とは、父が市川先生と同業の歯科医師でしたのでそんな関係で何度かお会いする事がありました。先生とお会いした昭和 22 年はまだ戦後の復興の最中で、電話は各家庭にはなく、歯科医師会からの連絡は、ガリ版印刷でそれを各歯科医院に回覧するのです。父の言いつけで回覧板を４、５回市川先生の歯科医院に届けました。先生の歯科医院は当時､錦町(中央一丁目)にありました。ある時、待合室で先生が私を呼び止め、YMCA の話、ボーイスカウトの話をして下さいました。正直、YMCA の話は小学２年生の私には良く理解出来ませんでした。ただ、‘人に迷惑をかけない’‘人の為に尽くす’‘相手を思いやる’この３つの言葉を噛み砕いて話して下さいました。「この３つの言葉を（祈りの気持ちを）忘れて、人間が自らの力を過信し、傲慢不遜になることは非常に危険である。復興に際しても同様で、自分たちの、人間の力だけで頑張ると言うことでは、今回の戦争の復興はおぼつかない。どんな専門家でも、リーダーでも謙虚の気持ちを持ち、「自分の出来る事はほんの少し」と自覚して謙虚になることが大切。そうしなければとんでもない勘違をし、他人を巻き込み迷惑をかけることになる。今、先生の言葉を思い浮かべるとこんなふうに思います。またボーイスカウトの事は非常に興味がありました。入隊したいと思いました。特に制服には魅力が有りましたが、当時の家庭の事情を考えた時、それは両親の負担が大きくなるのではないかと思い入隊したいとは言い出せませんでした。（子供が私の夢を実現した）あの時、ボーイスカウトに入隊していたら、私の人生も異なっていたでしょう。

その他に YMCA の百石町移転に関しては市川先生、父その他二，三人と父の診療室で熱心に話し合っている姿が目に浮かびます。

◆YMCA便り◇

「新たな変革と成長の年に」

総主事　　中田　純子

先日 1 月 11 日、山梨 YMCA 本館 3 階大澤英二記念ホール「ベテル」にて、甲府・21 甲府・富士五湖・やまなみワイズメンズクラブ合同の新年例会が開催されました。主幹ワイズ会長の挨拶では、2025 年巳年を迎え、蛇の脱皮に象徴される新たな変革と発展の年として、ワイズメンズクラブの協働強化の必要性が強調されました。山梨 YMCA は、世界 YMCA の一員として、そして日本 YMCA 同盟の一翼を担う組織としてグローバルな視点と地域に根ざした活動を融合させながら、事業のブラッシュアップを行ってきました。　しかし、急速な人口減少、デジタル社会の進展、地域での子育て環境の変化など、社会の変化のスピードは私たちの想像をはるかに超え、各事業の利用者数も危機的状況が見られ全体で苦難の時を迎えております。この変革の時代に対応するため、山梨 YMCA は世界に連なる YMCA の共通グローバル戦略である「Vision 2030」に則り、新たな姿への変革を目指します。「Vision 2030」では､若者のエンパワーメント、地域社会の強化、環境の持続可能性などを主要な目標として掲げており、山梨 YMCA もこれらの指針に沿って活動を展開していきます。

これからも、ワイズメンズクラブとの強固なパートナーシップを基盤に、日本 YMCA 同盟や世界 YMCA とのネットワークを活かしながら、地域社会の課題解決に取り組んでいきます。この 2 月には毎年行われている「ピンクシャツデー」を実施します。これはいじめ防止を目的とした国際的な取り組みです。今年も皆様に賛同していただき、それぞれのお立場で山梨県内、長野県内にて実施いただきたいと願います。（次ページ参照）

この変革の時、皆様一人ひとりのアイデアと行動が、山梨 YMCA の未来を形作ります。新しいアイデアを恐れず、積極的に提案し、実行していく勇気を持ち続け、私たち YMCA は、蛇の脱皮のように新たな姿へと変わることを希望し変化を恐れることなく成長していく年にしたいと思います。具体的には、会員数を 10% 増加させ、地域のニーズに応えた新規プログラムを立ち上げることを目指します。どうぞ、山梨 YMCA に賛同していただける方の発掘とユースリーダー育成事業にご協力いただきまして、これからも、より良い地域社会、世界の平和の創造に向け寄り添い歩んでいただきたいと切に願います。

山梨YMCAピンクシャツ・ウィーク

2025年2月25日（火）～28日（金）

～たいせつな　わたし　たいせつな　あなた～

2023年度、学校で把握された「いじめ」は73万件と、コロナ後増加を続け過去最多となり、自殺や不登校などの重大事態は1,306件と、昨年度比42%の大幅に増加、調査開始以降初めて1,000件を超える結果となりました。小・中学校における不登校児童もはじめて30万人を越え、生きづらさを抱えた子どもたちの低年齢化も深刻な社会問題となってきています。

全国のYMCAでは毎年2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」として、いじめ防止のキャンペーンを行なっています。山梨では各事業所（保育園、児童発達支援事業、学童、高齢者デイサービス、教養教室等）において「いじめ」や「こどもの人権」に関するアクティビティーを日常の活動の中で取り上げ、期間中はいじめ防止のシンボルとして、ピンクのTシャツや小物を身につけ、啓発活動を行います。自分のことも他者のことも大切にできる関係性に支えられた地域社会―ポジティブネットーを山梨に。皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

日　時：　ピンクシャツウィーク　2025年2月25（火）～28日（金）
場　所：　山梨YMCAグローバルコミュニティーセンター（〒400-0032　甲府市中央3-10-7）
ピンクシャツウィークは、YMCAの各事業所にて個別に行います。

YMCAピンクシャツパレード　2025年2月26日（水）

15：30～17：30　　甲府市役所～銀座通り～YMCA

期間中　甲府市役所にていじめ防止キャンペーンパネル展を行います。

後　援：文部科学省
甲府市・甲府市教育委員会（予定）
主　催：公益財団法人　山梨YMCA
甲府市中央3-10-7　/（055）235-8543

お問い合わせ：
生涯学習事業部　地域コミュニティー事業
担当：福田　070-3953-0322
Email: n.fukuda@yamanashiymca.org

公益財団法人　山梨 YMCA
〒400-0032　山梨県甲府市中央 3-10-7
TEL（055）-235-8543
https://yamanashiymca.org/

Pink Shirt Day 2025
～いじめのない世界をめざそう～

ピンクシャツデーは、2007 年、カナダの学生 2 人から始まった「いじめ反対運動」です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩 2 人が 75 枚のピンクのシャツやタンクトップを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に着けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然と無くなったそうです。カナダで最初にこの出来事があった日が、2 月の最終水曜日でした。それ以降、2 月の最終水曜日に、私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す一日としています。

2024年のようす

企業主導型保育園　野の花保育園

YMCA 学童の子どもたちによる甲府市表敬訪問

田富恵みの家

南西望みの家

YMCA ピンクシャツパレード